

桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校
校長 大塚 潤

もつとやさいいまなでいより

地域をユニバーサルデザインで考える

1月19日(日)に、市民会館文化ホールにおいて、「第24回青少年意見発表会」が開催されました。中央公民館区の小学校10人、中学校6人の皆さんが日頃身近な問題として捉えている平和・人権・まちづ

くり・将来の夢や希望等について堂々と自分の思いを発表してくれました。私も、16人の意見発表から感動と希望を抱かせてもらいました。

本校からは、「桜馬場のまちとユニバーサル

ルデザイン」と題して、さんが堂々と発表してくれました。以下、さんの発表内容を掲載します。

皆さんは、ユニバーサルデザインについて知っていますか。ユニバーサルデ



素晴らしい発表をありがとう

ザインとは、できるだけ多くの人にわかりやすく、できるだけ多くの方が利用可能であるようにデザインすることです。私は、ユニバーサルデザインがもつと桜馬場のまちに増えてほしいと考えています。そのためには、まず、長崎の現状をユニバーサルデザインの視点で見ることが重要だと考えます。

みなさんはユニバーサルデザインを意識して地域を見たことがありますか。こう考えたのは、最近総合的な学習の時間で、ウズビ・サコ先生という、日本国際博覧会協会の副会長で、空間人類学の専門家でもある方に、「桜馬場のまちや桜中は優しくない」と指摘されたからです。

最近、STの時間に町にユニバーサルデザインを探しに行ったとき、私は「桜馬場の町はお年寄りの方が多いな」と感じました。そこで私は、実際に長崎にどれだけお年寄りの方が住んでいるのか調べてみました。すると、人口に占める65歳以上の割合を示す県内の高齢化率は、約34%と、全国で9

番目に高いことが分かりました。しかし、今の桜馬場の町は、坂や階段が多いことなどにに対し、あまり工夫がされていません。

ウズビ先生は、空間人類学の専門家としての視点から見た桜馬場が優しくないわけについて話してくれました。例えば、桜中の階段。ウズビ先生からは、「足の悪い人や車椅子の人はどうするの?」と指摘されました。そして、狭い通学路。一車椅子の人は車道にはみ出してしまふのにどうするの?」

と云われてしまいました。長崎は坂の町。坂が多いと、お年寄りに限らず上り下りが大変です。例えば桜中は3階建てですが、古い階段以外に上の階へ上る手段がないので、足をけがした人はとても上りずらそうでした。やはり、桜中や桜馬場のまちはもつと優しいまちにする必要があると思います。ずっと見てきた桜馬場のまちなのに、ウズビ先生に言われて、確かに「こも不便だな」と気づかされることもありました。

寄りの気持ちを理解しているつもりでも、実際にはあんまり理解できていないんだな、と改めて実感しました。

このように、今の桜馬場、今の長崎にはユニバーサルデザインが足りません。桜中では「こんなものがあつたらいいな」というユニバーサルデザインを考え、ウズビ先生に提案しました。そのデザインとは、高齢者のための、椅子に座っているだけで階段を移動できるというデザインです。私は、誰でも簡単に利用可能なデザインをこの桜馬場に広げていくことができればいいと考えます。

3学期の抱負

1年2組

いよいよ、今の学年で迎える最終学期が始まりました。僕は、次の学年に向けて、この学期で頑張りたいことが2つあります。1つ目は勉強です。2年生になれば、今よりも学習内容がより難しくなる

と聞いています。しかし、今の僕の家庭学習の状況を振り返ったとき、家に帰るとすぐに趣味のことに逃げ、日々の学習をおろそかにしてしまうことがあります。毎日の学習の積み重ねが甘かった分、難しい問題が出てきた時に落ち着いて解けなかったという苦い思い出があります。だからこそ、3学期では、楽なことに逃げず、どんな問題にも対応できる学力を付けるために、家庭学習での復習を大切にしていきたいと思います。

ですが、この課題はすぐには解決することはいきません。だから、皆さんもユニバーサルデザインの視点でまちを見てみると、新しい課題に気づけるのではないのでしょうか。私は、皆さんのユニバーサルデザインの意識を高く

2つ目は部活動です。始めは、部活動に入学すること、積極的にいくなかった自分ですが、家族の勧めもあり、オーケストラ部に入ることを決めました。先輩方の優しいサポートのおかげで、バイオリンパートという初めての経験を楽しめました。また、定期演奏会や市民音楽祭などの本番を経験する中で、演奏でミスをしてしまったり、周りの先輩方や同級生の上質な演奏を聴いたりして、自分ももっとうまくなりたいと思うようになりました。4月には新1年生が入学し、入学式ではオケ部の演奏があります。そこで、悔いのない演奏ができるように、そして、新1年生がたくさん入学してくるよう、3学期の部活動を頑張りたい。2学期に人を傷つけない、馬鹿にしたりするような言動について、学年で考える機会が何度かありました。3学期は、全員が仲間を大切に、誰もが安心して過ごせる学年にしていきたい。そして、みんなが自信をもって、進級できるように頑張ります。

桜中の強みと課題

桜中の未来をともに考えよう

12月末に行った学校評価の結果がまとまったので、報告します。今年度の学校評価の結果を参考に、子どもたちにとってよい教育活動を目指し、新年度の学校教育活動及び学校経営に生かしていきます。(数字は肯定的回答率)

【うれしい面】

- ①学校の雰囲気
「学校は明るく楽しい雰囲気である」96%、保護者91%、教職員97%
- ②生活指導
「生徒は足りないところや失敗もあるけれど、前向きにがんばろうとしている」生徒91%、保護者94%、教職員100%
- ③人権教育
「生徒は言葉や態度に、互いを認め、励まし合うことができる」生徒95%、保護者89%、教職員100%
- ④平和教育
「平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている」
- 生徒90%、保護者89%、教職員97%
- ⑤特色ある学校づくり
「伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている」生徒96%、保護者95%、教職員92%
- ⑥保健・衛生
「学校は病気の予防に努め、健康・安全に関する教育を行っている」生徒94%、保護者89%、教職員100%
- ⑦体力向上
「生徒は学校行事や部活動・習い事に意欲的に取り組んでいる」生徒93%、保護者88%、教職員100%
- ⑧安全管理
「生徒の安全に気を配っている」生徒95%、保護者93%、教職員100%
- ⑨情報提供
「学校の状況は通信やHP等で知ることができ」生徒94%、保護者97%、教職員97%
- ⑩環境整備
「学校は、環境整備に努めている」生徒90%、保護者88%、教職員97%

⑪職場環境
「学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる」教職員97%

【考察】

今回のアンケートでは、多くの項目で高い評価をいただき、大変うれしく思います。特に、「学校は明るく楽しい雰囲気である」「生徒は足りないところや失敗もあるけれど、前向きにがんばろうとしている」の項目では、生徒・保護者・教職員の三者が90%以上の肯定的な回答でした。これは、日頃から生徒が学校生活を積極的に充実した学校生活を送ってくれている証であり、私たち教職員にも、大変励みになる結果でした。これらの結果から、生徒・保護者・教職員が互いを認め合い、協力し合える温かい雰囲気があることが伺えます。

【改善が必要な面】

- ⑫業務の改善
「校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している」教職員56%
- ⑬学習指導
「生徒は自分に必要な学習を自覚し、粘り強く、意欲的に取り組んでいる」(塾等での学習も含む)生徒82%、保護者71%、教職員74%
- ⑭読書
「生徒は、本を読むことが好きである」生徒73%、保護者50%、教職員77%
- ⑮GIGA
「生徒はクロームブックを

活用して生徒の学習に取り組む意欲を高めている」生徒77%、保護者75%、教職員82%

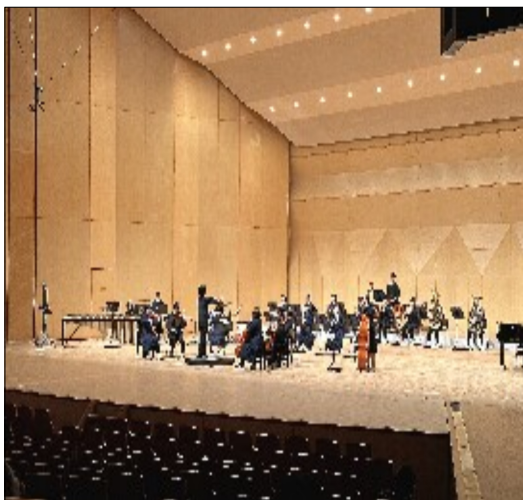
【考察】

まず、教職員は、「業務の改善」について、負担が大きいと感じる職員が多くいることがわかりました。昨年度に比べ13%改善しているものの、まだ努力が必要です。また、生徒の皆さんや保護者の皆様からは「学習意欲を高めたい」「読書習慣を身につけさせたい」「GIGA端末をもっと有効活用したい」というご意見をいただきました。これらの課題を改善するために、改めて課題意識をもって、次年度につなげていきます。

特に、「学習の習慣化」「読書」については、毎年課題が上がっています。生徒の興味関心を高める工夫、図書室の本を増やしたり、読書イベントをより周知・充実させたりしたいと考えています。今回のアンケートにご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。今後も、より良い学校づくりに向けて、ご協力をお願いいたします。

1年生の1月の重点目標

気づき 整える きれいな環境に美しい心が育つ
周りを見て、気づき、すぐに行動しよう



オケ部 北高と合同コンサート